

## 2021年度文系チャレンジ講座（第3回）を実施しました

7月21日（水）に経済学部の大呂 興平先生を講師に迎え、「日本の農業は保護されるべきですか」というテーマで、文系チャレンジ講座の第3回を実施しました。初めて ZOOM 配信して行いました。別府翔青、大分雄城台、大分西、大分鶴崎、臼杵、三重総合、芸術緑丘、宇佐産業科学、大分東、大分東明の10校124名が受講しました。



### 国論を二分した「問題」

TPP(Transpacific Partnership)  
への参加の是非をめぐる議論

- 「自由貿易をせずに発展した国はない」
- 「農業を大事にしない国は滅びる」
- 「自由貿易という公正なルールに乗るべき」

今回の講師である  
経済地理学が専門の

大呂先生は、若い頃にバックパッカーとして世界中を訪れ、自分の目で現地を確認し世界の「今」に触れてきました。授業の初めに大呂先生は受講生へ、「日本の農業は保護されるべきか、それとも市場開放されるべきか」を問いました。受講生はどちらにも意見がありましたが、この問いは高校で解く1つの正解が用意された「問題」ではなく、答えを求めて自分で論理立てて考えることが重要で

あることを説明しました。そのための見方として、まず「自由貿易の重要性」について「比較優位」の理論を紹介し、互いの国が強みに特化することで、貿易の利益を生むという理論を示しました。他方で農業保護にも理論的根拠があり、第一に自国に農業が存在することが国の食糧安全保障に欠かせないこと、第二に農業が国土や地域社会にきわめて大きなインパクトを持つこと、第三に農業には、市場では評価されない多面的な機能が存在

農業生産には土地が不可欠  
→もとの土地面積によって、  
農業の生産性が宿命的に決定づけられる。

新大陸と日本の農業の間には、  
農家の**努力だけでは克服できない生産性格差**。

### なぜ、農業保護の必要性が叫ばれてきたのか（まとめ）

- ① 国の食料安全保障
- ② 国土・地域社会へのインパクトの大きさ
- ③ 農業の多面的機能の存在

農業にも、それを**保護する正当な理由はある**、  
というべき。

することが示されました。これらのことを踏まえたうえで、もう一度、大呂先生は冒頭の質問を投げかけました。すると、論理的に自分の意見を言うことができた生徒がでてきました。これから社会に出て直面する問題のほとんどが、単純な答えでなく、複雑なものだらけであり、そこには客観的かつ多面的に問題を捉えることが必要になる。その力を養うために、「大学」があり、「大学で勉強する」価値があると受講生へエールを送られていました。

講義後のアンケート調査は、「総合的に判断して授業がよかった」(98%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。

以下同じ)、「わかりやすかった」(97%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(99%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(63%)、「映像はよく見えた」(91%)という結果でした。生徒からは、「問題を自分で探し根拠を持って解決する能力を身につけることが大事であり、それを養うために大学で研究することを改めて知ることができた」という意見がありました。

### まとめ

「日本の農業は保護されるべきですか？  
それとも市場開放されるべきですか？」

- 理論を学ぶこと
- 現実から考えること

そこまで踏みこんではじめて、日本の国益に  
なっているかどうかの判断ができる。

大学での勉強を通じて、  
**自分の力**で「問題」を考えるようになってほしい。